

令和5年度 第2回学校運営協議会（記録）

令和5年度の第2回学校運営協議会を令和5年11月22日（水）13時00分より、11名の委員の出席のもと開催しました。出席した学校運営協議会委員は、次の方々です。

- ・北條 俊介 様（本校 PTA 会長）
- ・佐藤 敏文 様（真駒内東町町内会 会長）
- ・山名 常二 様（澄川第九町内会 会長、精進川美化・緑化の会 会長）
- ・菊地ひとみ 様（社会福祉法人札幌肢体不自由福祉会 施設長）
- ・戸倉 聡 様（日之出歯科真駒内診療所 診療部長）
- ・高橋 和明 様（札幌大学 教授）
- ・高木 美穂（本校 校長）
- ・近藤 正臣（本校 副校長）
- ・越田 淳（本校 教頭）
- ・黒沼 敬貴（本校 事務長）
- ・松橋 圭子（本校 教諭）

また、オブザーバーとして、川崎 真也 様（北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課社会教育指導係主査）が参加されました。

1 前期の教育活動、地域と共に進める取組・協働活動の説明

最初に、第1回学校運営協議会以降の前期の教育活動について、副校長から説明がありました。小5、中2、高2の宿泊研修、小6、中3、高3の見学旅行や、7月14日（金）に本校体育館で行われたポッチャキャラバン2023の様子について、写真や動画を交えて紹介されました。

また、学校運営協議会で討議の柱となっている「地域と共に進める取組・協働活動」として、フラワースマイル作戦や一日防災学校、カフェ minna で行われた作品展、O・むすびフェスタでの作品及び作業製品等の展示の様子、及びボランティアやゲスト・ティーチャーとして来校された方々について説明がありました。



2 協議・意見交流

次に、地域と共に進める取組・協働活動について、協議・意見交流を行いました。協議・意見交流では、主に次の内容が話されました。

- フラワースマイル作戦での、高さのある花壇については、花が立体的に見えて地域の方から評判が良かった。今後も課題を整理しながら、活動を継続していきたい。

- 本校は2次避難所に指定されているが、地域の方にどのような施設、設備があるかなどが知られていない。町内会と連携した研修機会があると良いのでは(町内会としては土日開催だと人が集まりやすい)。
- 本校としては、特に冬季の学校外の避難場所について心配がある。そのような場合に、地域の町内会とどう協力して避難できるか、事前に確認を行っていた方が良い。
- O・むすびフェスタについては、次年度は今年度の反省を生かし、より多くの地域の方に来場してもらえる用意していこうと考えている。地域の方たちも、どうやったら楽しめるかという発想が必要であると感じている。
- ボッチャは、障がいの有無に関わらず、みんなが参加しやすいきっかけとなる競技である。本校の児童生徒や事業所の利用者が、チームを作ってボッチャフェスのような大会に参加できるようになると良い。
- 前回、作品展示などの案が出た札幌大学との合同イベントについては、1回限りのイベントなら行うことは可能であるが、持続的な取り組みとなるためには大学側のメリットなど win-win の関係となる必要がある。大学祭やアイスクャンドルでのイベントの場合、実行委員会に本校が加わるなどが求められる。
- 札幌大学に、本校の児童生徒が校外学習として来校し、ゼミの学生と交流するなどの取組は可能である。
- 情報発信を含めて、本校のことや障がいのある児童生徒のことを、もっと知ってもらう取組が必要である。
- 10月に行われた日本障害者歯科学会(札幌大会)や、厚生労働省の歯科医療提供体制等に関する検討会で、医療的ケア児や在宅歯科医療などがテーマとして取り扱われていた。【情報提供】

3 学校評価の項目について

副校長より、今年度の学校評価について、改善点の説明がありました。

- 今年度、全ての学校評価を Google フォームにより集計することにした。
- 教職員用、保護者用、関係者用の、評価達成度の尺度について、文言と達成度の基準を全て統一した。
- 経営方針と教育方針に関わる評価項目のうち保護者が回答できるものを、保護者用評価に加えた。
- 関係者用評価に、個別の教育支援計画についての自由記述を加えた。

説明後、委員の皆さんから令和5年度の学校評価の項目について、承認を得ました。

4 学校卒業後の学びの充実に向けて

最後に、川崎主査様から、学校卒業後の学びの充実について、次のとおり情報提供をいただきました。

- 学校卒業後の障がい者の学習機会が十分に保障されていない現状。
- 生社会の実現や多様な学びの場づくり、本人のニーズを踏まえた学びに関する相談支援体制づくりなどの取組が地域に期待されている。

(教頭 越 田 淳)